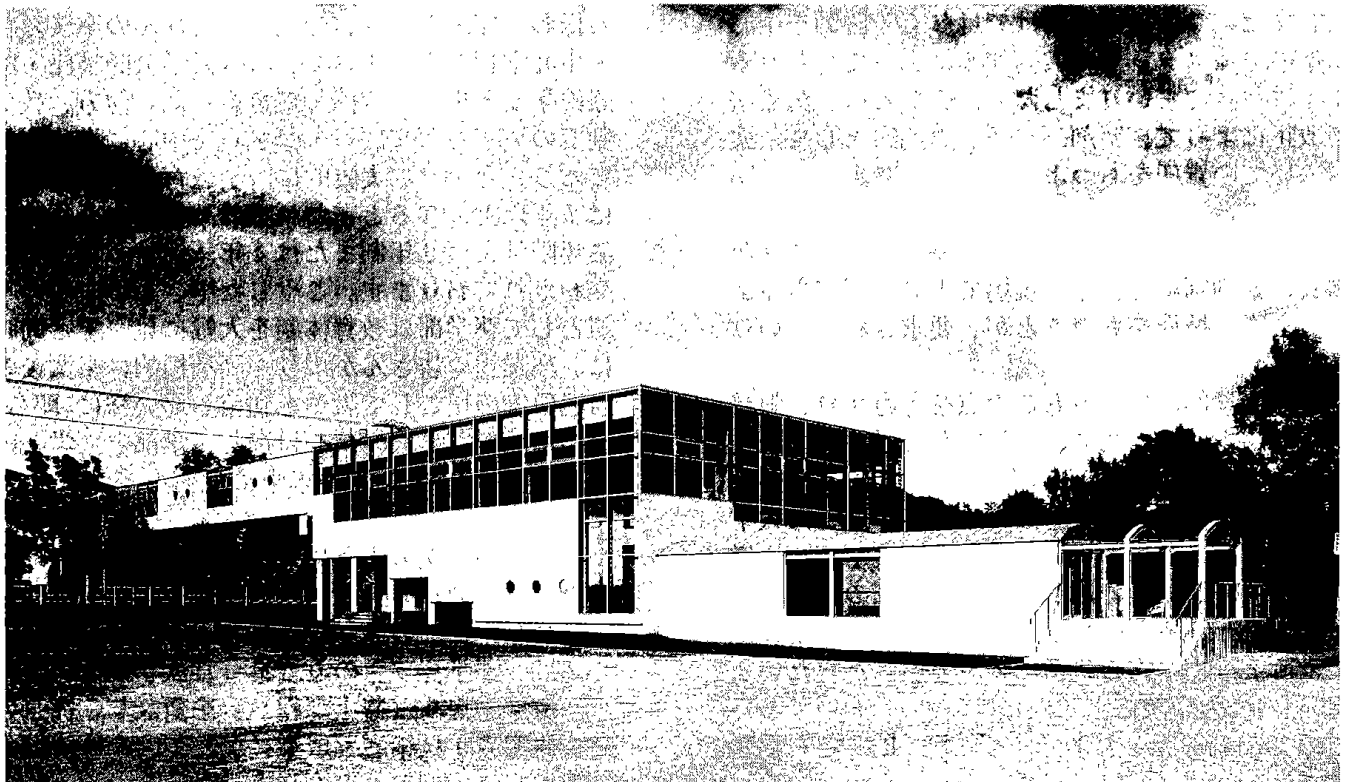


東日薬会報

発行所 北海道石狩郡当別町金沢1757番地
北海道医療大学薬学部同窓会
印刷所 (株)関西廣濟堂

☎(01132)3-0301 直通・FAX 編集人 浜上尚也
☎(01332)3-1211 大学代表 発行人 山崎信彦
札幌市白石区菊水二条1 ☎(011)842-5510



目次

東日薬会報によせる	富田 喜内	2
社会人大学院について	渡部 博之	2
新しい薬学教育の現場から	阪田久美子	6
平成7年度 事業報告・決算報告, 平成8年度 事業計画・予算		8
「支部紹介3」栃木県支部		9
薬理学教室同門会	前田 典子	10
高田同門会	武田 清孝	11
アンケート結果		12
協賛広告・編集後記		13

『東日薬会報によせる』



学 長 富 田 喜 内

現在医療は色々な面で変革が起こっております。これまでのように、治療は医師に任せておきなさいというのではなく、あくまでも患者の人格を尊重し、医師と患者とが一緒になって治療にあたることのできるようにしようとされてきました。また、診療は医師だけではなく、医師を中心に他の医療スタッフの共同作業によって行われるようになってまいりました。このことは、医療法の改正によって、薬剤師が薬の専門家として、薬についての責任をもつようになったことから明らかです。

皆さんもご承知のように、医療薬学の重要性が増し、薬剤師にも医療の現場で十分活躍できるような知識、技術をもつことが、要求されてまいりました。

本学薬学部の先生方もこの点を考慮され、教授会で議論をつくされて、本年度から学部はこれまでの薬学科、衛生薬学科を総合薬学科に改組し、広い薬学の知識技術をもたせるように、また大学院修士課程の薬学専攻に加えて医療薬学専攻を増設し、医療の現場で活躍しうる薬剤師の育成を図られました。皆さんもこのような社会の要請にこたえるよう、日常の研鑽に励んでいただきたいと思っております。大学院修士課程には、現場で働いておいての薬剤師のために社会人入試によって入学させ、昼夜開講（あいの里キャンパス）の教育や、科目等履修制度も発足しておりますので、ぜひ卒業生の皆さんに利用していただきたいと願っております。

高齢者社会となり、18才人口の減少は、受験生の減という大学にとってきわめて重大な危機がやってきております。また大学としても色々な計画を実施しなければならないことがございます。同窓生の皆さんのご援助、ご協力が必要な時になっております。また大学をより良い教育・研究の場とするには、同じ屋根の下に住んだことのある同窓生の声（要望、忠告）が必要です。ぜひ一言教えてくださるようお願いいたします。

薬学部同窓会のますますのご発展と会員の皆さんのご活躍を祈念いたしております。

『社会人大学院について』

北海道医療大学大学院
薬学研究科教務委員長
渡部 博之

平成9年4月から管理薬剤師の権限強化と責任増、病棟での900点業務の推進等、医療現場のニーズに対応した薬剤師職能の質的向上が否応なしに求められる今日この頃です。これらの厳しい環境下で卒業生の皆さんが奮闘されている事は大学にも伝わって来ており、今迄にも皆さんの卒後教育・生涯学習を支援すべく、医療薬学公開講座・医療薬学セミナーを開催してきました。他方、教育制度の見直しが文部省・厚生省を中心に進められており、今後は、実質的に医学教育は8年、歯学は7年以上になると言われております。薬学の修業年限延長（6年制または4年+修士2年）論も交わされております。こうした中、大学改革の一環として薬学部は教育体制を大幅に見直すと同時に、卒業生の皆さんがより一層積極的に卒業後の自己研鑽の場として大学を利用し易い様に、即ち、社会に開かれた大学院を目指し、学部と大学院の組織等について平成7年中に見直しを行いました。

その結果は次のように要約されます。

1. 学部教育を見直し、二学科を統合して「総合薬学科」の一学科とする。
2. 「薬学専攻」のみであった大学院に、「医療薬学専攻（修士課程）」を新設し、従来の研究者・技術者養成型に加えて、高度専門職業人養成型の教育を行う。
3. 大学院（修士課程）入試選抜方法を見直し、「推薦入試・社会人入試」を導入する。
4. 働きながら学ぶ社会人大学院生の為に、利便性の高い「あいの里キャンパス」で「夜間開講」する。

これらは全て文部省に認められ、学部・大学院共、今年4月からスタートしました。

卒業生の皆さんが大学院で学び易いように配慮してありますが、要点を以下にまとめます。

① 社会人入試について

薬学・医療薬学両専攻共に図1の要領で受入れます。受入れ研究分野（学部の講座に相当）は図2にある薬学専攻7分野、医療薬学専攻9分野です。

図1 社会人特別入試制度

専攻名	入学定員		出願資格	入試科目	備考
	総定員	社会人			
薬学	16名	若干名	下記に該当する者で、大学卒業後社会人経験3年以上の者、またはこれに準ずる者。 ① 大学の薬学部を卒業した者 ② 理科系大学を卒業した者 ③ 外国において学校教育（理科系）における16年間の課程を修了した者。 ④ ①～③と同等以上の学力があると認められた者	① 試験 ② 面接	
医療薬学	24名	若干名	下記に該当する者で、大学卒業後社会人経験3年以上の者、またはこれに準ずる者。 ① 大学の薬学部を卒業した者 ② 前項と同等以上の学力があると認められた者	同上	薬剤師免許取得者であること

図2 薬学専攻・医療薬学専攻研究分野図

専攻	研究分野	専攻	研究分野
薬学専攻	薬化学	医療薬学専攻	生化学
	医薬化学 (薬品製造化学)		☆免疫微生物学 (微生物薬品化学)
	生薬学		☆中毒代謝学 (環境衛生化学)
	☆薬品物理化学		薬理学
	☆放射薬品化学		☆臨床薬理毒理学 (毒理学)
	薬品分析化学		薬剤学
	衛生化学		★臨床薬剤学
		☆製剤学	
		★病態生理学	

入学定員16名

入学定員24名
(旧講座名)

☆新設研究分野名
(学部講座と連動)

★新設研究分野
(大学院のみ)

② 授業科目について

従来の配当科目・単位等を全面的に見直し、図3のようになっています。両専攻の最も大きな違いは臨床薬学実習Ⅰ・Ⅱ（6ヶ月間の薬局・病棟実習）の配当の有無です。医療現場のニーズに見合った高度専門職業人育成の為のプログラムであり、本専攻設置の目的でもあります。更に、医療科学特論Ⅰ～Ⅺを開講し、高度化・多様化する医療への対応策としてあります。

図3 専攻別必要修得単位

区分	薬学専攻	
	授業科目等	取得単位数
必修	所属研究分野の特論	4
	所属研究分野のセミナー	4
	所属研究分野の課題研究	12
	医療科学特論Ⅰ・Ⅱ	4
選択	所属する専攻の特論・セミナー	6以上
	他の専攻の特論・セミナー	
	医療科学特論Ⅲ～Ⅴ	
	医療科学特論Ⅰ～Ⅺ ※但し臨床薬学実習は選択できない	
	合計	30以上

区分	医療薬学専攻	
	授業科目等	取得単位数
必修	所属研究分野の特論	2
	所属研究分野のセミナー※	4
	所属研究分野の課題研究 (臨床薬学実習Ⅰ・Ⅱを含む)	12
	医療科学特論Ⅰ～Ⅳ	8
選択	所属する専攻の特論・セミナー	4以上
	他の専攻の特論・セミナー	
	医療科学特論Ⅳ～Ⅺ	
	医薬科学特論Ⅰ～Ⅴ	
	合計	30以上
備考	※実習先でのカンファレンス等の一部を読み替えることがある。	

③ 単位の修得について

働きながら単位を修得し易いように、履修形態の弾力化を図り、札幌市あいの里に在る札幌医療福祉専門学校や医科歯科クリニックの施設をサテライトキャンパスとして文部省の許可を受け、医療科学特論Ⅰ～Ⅺを夜間開講しています。(図4)

図4 夜間開講科目

	開講科目	年次	単位	
・授業時間	・医療科学特論Ⅰ	1	2	
	・ "	Ⅱ	1	2
月曜日から金曜日 の18:30～20:00	・ "	Ⅲ	1	2
	・ "	Ⅳ	1	2
・開講科目	・ "	Ⅴ	1	1
	・ "	Ⅵ	1	1
	・ "	Ⅶ	1	1
	・ "	Ⅷ	1	1
	・ "	Ⅸ	1	1
・実施場所	・ "	X	1	1
	・ "	XI	1	1
	計 11科目			15

夜間に開講するのは上記科目のみであり、所属研究分野の特論、セミナー、課題研究の履修・指導は、当別キャンパスで昼間に行うため、社会人学生と時間を調整して、インテンシブ授業〔集中的個人指導〕を行う。

特論の内容は、Ⅰ：臨床薬理学、Ⅱ：臨床薬剤学、Ⅲ：臨床医学総論Ⅰ（内科系疾病論）、Ⅳ：臨床医学総論Ⅱ（外科系疾病論）、Ⅴ：臨床小児学概論・臨床免疫学、Ⅵ：臨床腫瘍・感染学、Ⅶ：病態生理学、Ⅷ：医薬品情報科学、Ⅸ：社会薬学、Ⅹ：患者コミュニケーション論、Ⅺ：在宅ケア論です。

図下の説明にもあるように、他の科目は当別キャンパスで集中的（インテンシブ）に履修・修得する事になります。

以上が卒業生の皆さんが、大学院にどう入学して、どのような科目を、どのように履修し修得すれば修士（薬学）の学位を手にする事が出来るかのあらましですが、この他に、生涯学習と大学院制度両方にかかわる「科目等履修生制度」について説明します。

④ 「科目等履修生制度」について

この制度は、此度の大学院改組で新たに組み入れられたもので、その内容は図5に示してあ

図5 科目等履修生制度

1. 制度の趣旨

生涯学習の推進などの観点から、本学大学院生以外の者で特定の授業科目のみを履修する者を受け入れ、大学院と生涯学習を制度的に連携し、社会人に多様な学習機会を提供して正規の単位を授与する科目等履修生制度を実施する。

2. 履修資格

学士の資格またはそれと同等以上の資格を有し、かつ規程による履修条件に該当する者で、本学の授業科目中の一または複数の授業科目の履修について願い出る者があるときは、研究科委員会の議を経て科目等履修生として許可する。

3. 出願手続

科目等履修生を志願する者は次の書類に検定料を添え、所定の期日までに学長に出願するものとする。

- (1) 入学願書（本学所定のもの）
- (2) 履歴書
- (3) 最終出身校の卒業又は終了証明書、及び成績証明書
- (4) 健康診断証明書（本学所定のもの）

4. 履修期間

科目等履修生の在籍期間は、許可された授業科目の講座期間とする。

引き続き科目等履修を志願する場合は、改めて科目等履修願を提出しなければならない。

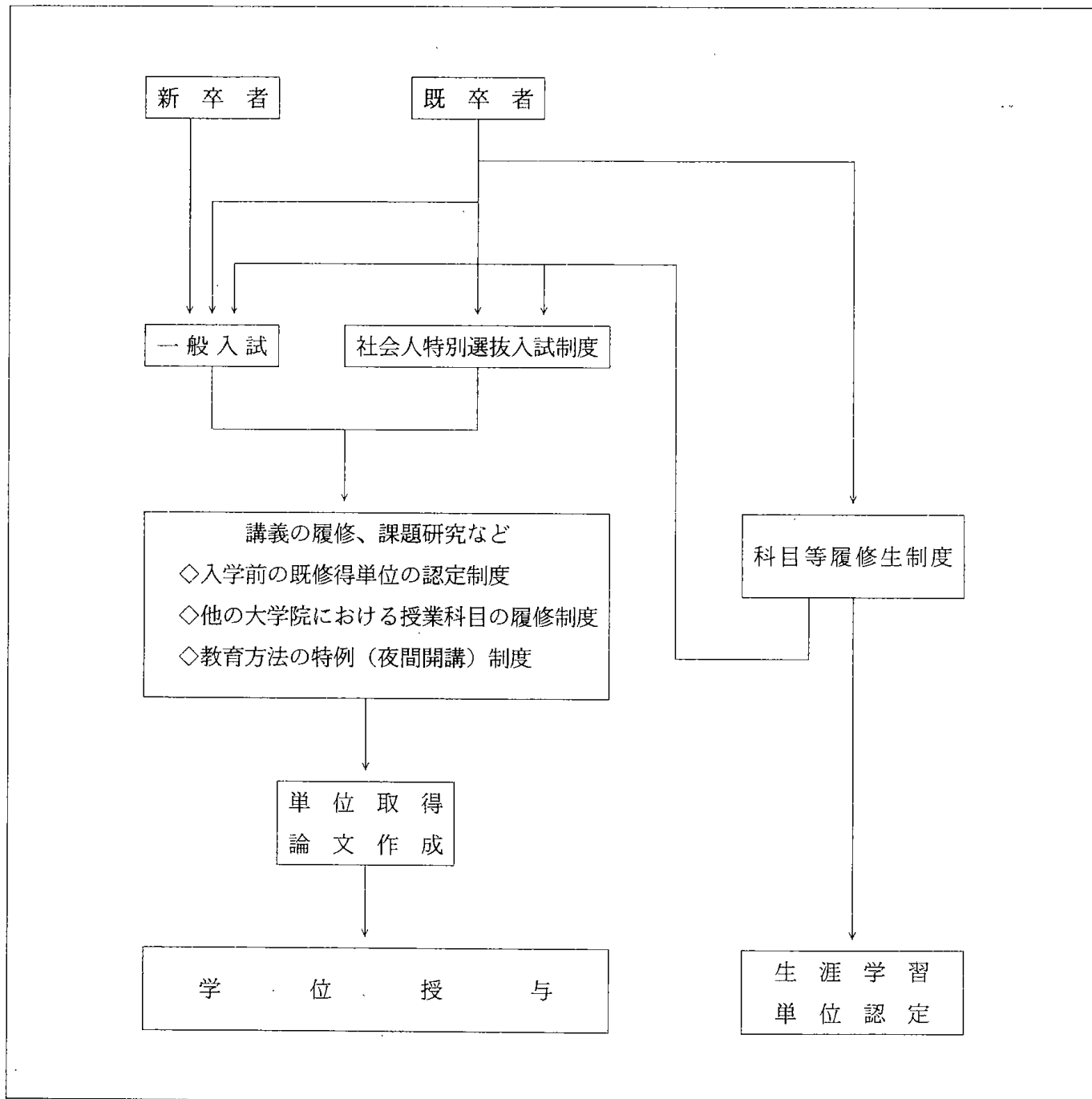
5. 履修証明書及び単位取得証明書の交付
科目等履修生は願い出により、履修した授業科目の履修証明書又は単位取得証明書の交付を受けることができる。

6. 入学検定料 10,000円
履修登録料 15,000円
授業料 20,000円

りますが、ポイントは、修得した単位が大学院を修了するのに必要な単位として認められた事です。科目等履修生制度と大学院の関係を図6に示してあります。

以上、学部・大学院の改革について紹介しましたが、薬剤師の資格そのものの見直し論・修業年限延長論・生涯学習の実践・医療現場からのニーズ等に将来にわたって対応する為に、卒業生の皆さん、大学院修士課程への入学を薦めます。今年度は社会人大学院生は3名、科目等履修生(前期)

図6 大学院修士課程・社会人学生受け入れによるフローチャート



は2名です。只、お金もかかりますので、大学院入学を決めかねている方々は、まず、科目等履修生制度で週1～2回の科目を履修し、仕事が終わってから、あいの里で夜間講義を受けては如何ですか。入試に関しては、広報部入試広報課、科目等履修に関しては学務部教務課が窓口になっています。

追記：薬学部では、既に修士課程を修了された社会人に対し、博士課程への社会人入試の導入を図るべく、現在検討を開始しました。

新しい薬学教育の現場から



北海道医療大学薬学部
同 歯学部付属病院
阪 田 久美子

今年から新しく担当した薬学部での3つの講義を通して、本学の薬学教育の現状の一端をご紹介します。

【薬学概論】1年生の薬学概論を藤間先生と一緒に担当しました。この科目は私が学生時代にはなかったものですが、私が薬剤師の仕事を始めすぐに、「薬剤師とは何か」という疑問にぶつかり、当時出版されていた4～5種類の薬学概論の教科書を読んだことがあります。その体験を、新しい薬剤師教育のためのこの薬学概論の講義にぜひ生かしたいと考えました。初めに学生にアンケートを行ったところ、「薬剤師になりたいか」という質問に135名のうち132名が「はい」と答え、「わからない」が2名、「いいえ」が1名でした。けれども「薬剤師とはどのような職能か」という質問には、「調剤や薬を管理する人」、「患者さんに薬について説明する人」など断片的な答えが大部分でした。そして「薬剤師について知りたいことは」という質問には、「臨床薬剤師、病棟薬剤師について」、「大学院進学について」、「薬剤師の職場について」など、自分たちが目標としている薬剤師についてもっと知りたいという熱い思いが記載されていました。この思いを持続させながら勉強を続けて、立派な薬剤師になってほしいと願うと同時に、そのための私の役割についても考えさせられました。

この講義の中で実施している早期体験学習の病院見学では、薬剤師の職能の重要性や業務の多様性、またそれを支えるための卒後も含めての勉強の必要性などを自覚し、アンケートで出されていた多くの疑問に対する解決の手がかりを得た様でした。また、今年から新たに始めた福祉施設での体験学習は、教員側に戸惑いもありましたが、学生は白紙の状態でも障害を持つ人々と接し、「人間として貴重な体験をした」、「人間観が変わった」、「偏見のある自分に気がついた」等の感想を述べていました。まだ問題点もありますが、医療人としての大切な視点を学ぶ場としてさらに充実させることができると考えています。また、本学習に対する意見として、調剤薬局見学の希望も出さ

このような場合には、 ぜひご連絡を

1. 同窓会会員の結婚

式の日時、会場(所在地の住所)をお知らせください。
東日薬より会場宛に「祝電」を打たせて頂きます。
なお、会員同志の結婚の場合には連名をお願いします。

2. 同窓会会員の死亡

死亡日時、死亡原因、葬儀の日時、喪主、会場(所在地の住所)をお知らせください。
東日薬より会場宛に「弔電」を打たせて頂きます。
上記各項をご連絡の場合、当事者の卒業期、氏名、住所はお忘れなく。また、友人、知人の会員で各項に該当する場合にもご連絡願いますれば幸いです。

〈連絡方法〉

ハガキまたは封書をお願いします。

2 (死亡) の場合には電話でも結構です。

〈連絡先〉

〒061-02
北海道石狩郡当別町金沢1757
北海道医療大学薬学部内
東日薬 事務局
TEL (01332) 3-1211 (代表)
FAX (01332) 3-1669 (学内共通)
TEL/FAX (01332) 3-0301 (同窓会室)

平成7年度事業報告

主な事業内容について

1. 理事会の実施（3回）
 - 審議内容
 - (1) 総会について
 - (2) 平成7年度活動方針について
 - (3) 保険代理店業務について
 - (4) その他
2. 講演会の開催
 - (1) 医療薬学セミナー（各支部と協力）
 - 札幌 5月27日
 - 旭川 10月7日
 - 沖縄 10月12日
 - 函館 10月21日
 - (2) 第10回医療薬学公開講座
 - 札幌 11月10日
3. 会報の発行（9月）
4. 卒業生の実態調査
5. 大学との懇談会（12月）
 - (1) 大学法人および事務局
 - (2) 学部理事
6. 会員名簿の整理
7. 卒業生の入会案内および謝恩会出席（3月）

平成8年度事業計画

主な事業計画

1. 理事会の開催
2. 講演会の開催
 - (1) 医療薬学セミナー（各支部と協力）
 - 札幌 5月25日
 - 旭川 10月5日
 - 帯広 10月5日
 - 沖縄 10月12日
 - 函館 10月19日
 - (2) 第11回医療薬学公開講座
 - 札幌 11月1日
3. 会報の発行（4月および10月）
4. 大学との懇談会
5. 会員名簿発行準備（第7回改訂版）
6. 卒業生の入会案内および謝恩会参加（3月）
7. その他
 - (1) 講演会・セミナー開催について
 - (2) 保険代理店業務について
 - (3) 東日薬会則改正について
 - (4) 東日薬設立20周年事業について

〈支部紹介③〉

栃木県支部

栃木県支部が支部として認められたのは2年前の平成6年でした。それまで活動していなかったのかというとそうではないのです。平成以前より同窓会を兼ねた新年会を実施していました。そして数年前からは年2回のゴルフコンペも開催するようになりました。

私、1期生が卒業して数年くらいは関東支部で同窓会を実施していましたが、場所も東京ということもあり地方からは中々出ていく時間がないのかいつの間には尻切れトンボの様に消失してしまいました。

そこで、私を含め有志数人で折角縁があって栃木の人間が遠く離れた北海道の同じ学舎で学んだのだから、せめて年1回は交流を深めたいと県人会を開催するようになったのです。

OBを捜すのは大変でした。同窓会名簿は数年に1回しか発行されないためMRの方に情報をもらったり、毎年発行される栃木県の病薬や県薬の名簿などで新卒者を捜す状態でした。

栃木の場合OBの数も何十人もいませんので住所や勤務先ともに栃木の方はもちろんその他に隣県に住んでいて勤務先が栃木、勤務先は栃木だが住所は隣県、帰省先が栃木という方も会員名簿に載せ新年会やゴルフコンペ開催時には連絡して参加してもらっております。

新年会は女性の方も参加してくれますが、ゴルフコンペは当初男性ばかりでしたが最近は女性の参加者も増えてきました。嬉しいことです。新年会では現在活躍している方面の情報や情勢などの交換はもちろん、昔を振り返り学生時代の話の花が咲き、あの先生はどうだったとかどうしたとか、同級生だったあいつはどうなったとか話が尽きなく毎回2次会まで話が持ち越されます。

この様な活動を当時同窓会会長であった星野氏に報告し理事会にて支部として認可して戴いた次第であります。

栃木支部は現在20数名おりますが、これからも活動を展開していきたいと思っております。近い将来には卒業研修セミナーを栃木でも実施して戴きたいと思っております。

その為にはこの場をお借りして申し上げたいのですが、いつも参加して下さる方はもちろんお声を掛けても参加して下さいあなた！次回開催通知が届いた際には是非参加して下さい。

幹事（交替で担当）一同参加をお待ちしております。

私のまわりにいる薬剤師に聞いても名簿はもちろん年一回すらの集いを実施している方（大学）は少ないようです。規模が大きすぎるのかもしれませんが。長く活動していくには、意見も纏まり易いし行動もし易い都道府県単位の活動が一番だとおもわれます。

誰かが音頭をとらなくては事が始まりません。同窓生との親睦をはかるためにも是非支部単位の活動をお勧めします。

栃木県支部 第一期生 川北 恵一



『薬理学教室同門会』

前田 典子(五期)

去る8月24日(土)札幌共済(サロンホール)に於いて第9回薬理学教室同門会圭雪会が行われた。今年の北海道は冷夏とも言われ、真夏日も数える程で道外からの参加者にとっては何とものすがすがしい1日を仲間と共に過した事であろう。

第1日目は今年で10年目を迎えられた南教授、門間教授をはじめ1期生から初参加の19期生までが集まり時の流れを感じた。諸先生方々のお話には日頃の職場での問題点から最前線のお話まで勉強させられる。

恒例の1期生からその年の卒業生までの近況を語るスピーチでは、ユニークな話の中に現代医療の問題が浮き彫りにされてくる。今年は昨年アメリカ留学から戻られた4期生の遠藤泰先生の元氣な姿もあった。中には昨年この会で薬剤師募集をした所その場で話がまとまり、今年の会では契約成立後同じ職場で働いていると言う微笑ましい報告さえあった。色々な意味でも情報交換の場でもあり有益な会となっているようである。特に1期生から最後の音別校寮生活経験組である12期生は当時の話しに花が咲き、後輩達も興味津々話に参加していた。音別、当別での学生生活には様々な思いがあるだろうが、それぞれの胸の中に懐しい貴重な青春の1ページとしていつまでも思い出されるのだろう。そして母校の先輩、後輩の強い絆もこうして築かれてきた由縁である。年に1度のこの会で話しもはずみ、この後次の日のゴルフコンペも忘れ、遅くまで語り合っていたグループ

もあったようである。

翌日は田辺先生より受け継がれて来た同門会ゴルフコンペが石狩平原カントリークラブにて行なわれた。天候にも恵まれ青空のもと参加者も思う存分のプレーに汗を流していた。道外からの参加者と門間先生の元氣なプレーも花を添え楽しい一時であったが女性の参加者が少なかったのが寂しかった。この会はプロ級の腕前の者から初めてコースに出た者など気楽に参加できるのもこの会ならではの是非次会には多くの参加を期待したい。

幅広い分野で医療に従事している我々だが今問題になっている薬害については誠に残念なものを感じる。慎重に長い年月を経て研究開発そして認可され世に出されたはずの新薬でも正しい情報提供のもとに安全に、しかも有効的に使われなければ意味がない。1日も早く苦痛から逃れ回復を信じる病める者達の1粒の薬に込められた願いを忘れてはいけない。患者が医療への信頼を取り戻すため、又医療に携わり人の生命に係る者としての今後の薬剤師の役割と責任は大きい。

社会に出て様々な集いはこれからもあるものと同じ学び舎で学んだ懐しい仲間と世代を越えて和気藹々と話せるこんな会にはないだろう。私も予定の許す限り参加して行きたいと思う。

最後に準備に当られた方々への感謝と共に今後の会の盛会を願うものである。

「アンケート実施についてのお願い」

毎回アンケートにご協力いただきありがとうございます。

今回は大学院社会人入学制度およびセミナー・講演会について調査させていただきます。解答をいただきましたアンケートは次号の会報に掲載させていただくとともに大学や関係部署の調査資料となります。今後、同窓会を発展させていくためにも会員皆様の意見が不可欠なものですので是非ご協力をお願いいたします。また、同窓会に対するご意見ご要望などがございましたら合わせてお書きください。

アンケート内容はハガキに記載しております。11月30日までにご返送下さいますようお願いいたします。

『高田同門会』

武田 清孝(1期)

去る9月21日ホテルアーサー札幌に於いて恩師高田昌彦教授を囲み高田同門会が開催されました。高田同門会も今回で9回目の開催となり、南は沖縄、北は北海道全域からと全国各地より73名が出席し、学生時代はもちろん卒業後も御口授、御指導いただいた同門生が集まり楽しい1日となりました。

会は8期尾下君の司会進行にて発起人代表の挨拶の後、高田教授より学生時代の講義を思い出すかのような穏和な口調で懐かしい話を交えた御挨拶を頂き、来賓の国立療養所登別病院薬剤科長山端一宝先生の乾杯の音頭で開会となりました。

薬剤学教室同門の仲間は講座の研究テーマ知っているのか知らぬのか腎排泄機能が正常で、かつ肝機能にも障害がないようで開会とともにアルコールにて喉を潤し学生時代の思い出話や近況報告に花が咲き、今年度卒業のニューフェイスや在学中の大学院生も緊張がほぐれ先輩、後輩和やかに語りあっている光景が至る所で見受けられました。高田教授の周りには入れ替わり立ち替わりグラスを片手に楽しかったことや御迷惑をお掛けしたことなどを話しているのか多くの同門生が集ま

り高田教授も1人1人に声をかけておられました。

宴も半ばとなり司会より久しぶりの出席となった初代同門会長1期嘉陽君にマイクが向けられ同門会発足時のエピソードや学生時代の思い出を語ってもらい、引き続き今年度より製剤学教室関川彬先生に花束贈呈が行われ一言ご挨拶を頂きました。関川教授も卒業後久しぶりに逢う卒業生と懐かしい思い出に話も弾み、我々同門生に激励の声を掛けて頂きました。

更に今年度から北海道大学より薬剤学教室に助教授として就任された斎藤浩司先生の御紹介があり、斎藤助教授からも高田教授の人柄に触れた御挨拶を頂き同門生一同大拍手にての歓迎となりました。

このように今回の同門会も和気あいあいの中、高田教授御指導の下、学生時代を送れたことに感謝し時間のたつのも忘れ有意義な一時を過ごしました。

最後に1期金子君より高田教授におかれてはますます御健勝であられるとともに、高田同門生のさらなる活躍を願い、乾杯にて閉会となりました。



お願いとお知らせ

東日薬も大学の隆盛と共に会員の皆様のご協力を得て発展の一途を進んでおります。その活動資金の唯一の基は会員各位納入くださる会費によるものでございます。会の財政は楽ではありません。未納の皆様の会費の納入をお願いいたします。

振込先

◎郵便局 口座番号 小樽 02770-1-17942

北海道医療大学薬学部同窓会

◎北海道銀行 当別支店 口座番号 0037865

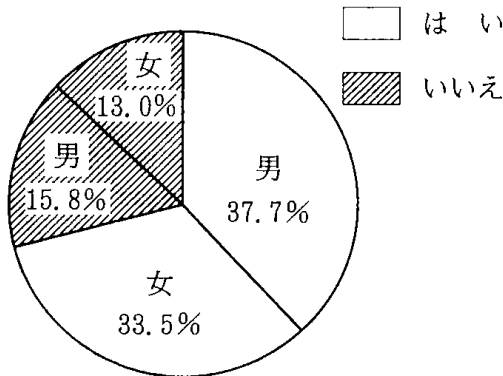
代表 山崎 信彦

但し、手数料は払込人負担となりますので、ご了承願います。また、お振込の際はご氏名、ご住所、卒業期をお忘れなくご記入くださいますようお願いいたします。

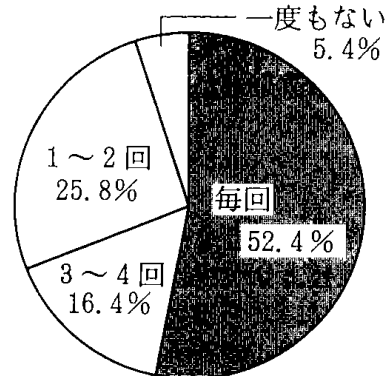
アンケート調査の結果についての報告

平成8年4月に実施いたしましたファルマトピックス（機関誌）に関するアンケートの結果は316名の会員の方より解答をいただき以下のようにになりました。ご協力ありがとうございました。

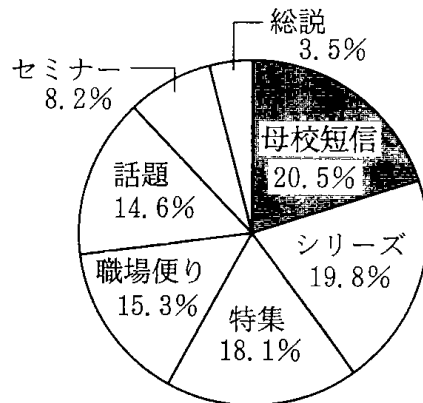
Q. ファルマトピックスを知っていますか。



Q. ファルマトピックスを読んでいますか。



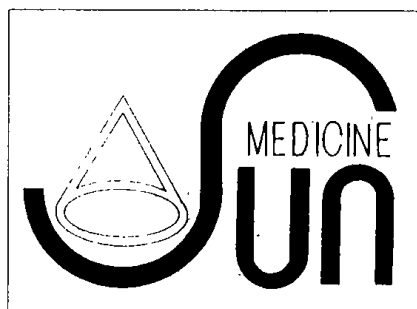
Q. ファルマトピックスの中で興味をもつ記事は何ですか？



ファルマトピックスに関する意見・要望・その他

- ・生涯学習に関する事を特集してほしい。(3期)
- ・基本的には卒業教育の一環となる学術情報誌の位置づけでいて欲しい。(3期)
- ・有料にしてもよい(3期)
- ・大学内の設備等や大学内の様子もあるとおもしろいと思う。(4期)
- ・同窓生への薬局訪問、外国の薬剤師教育や薬局の現状、同期の方々の近況報告など特集して欲しい。(4期)
- ・キャンパス、当別町など周辺の写真もたまには載せて欲しい。(4期)
- ・今、大学でどんな研究がされているか知ることができてよい。続けて欲しい。(7期)
- ・退任された先生の近況などを載せて欲しい。(8期)
- ・転職等の情報(給与・待遇)も載せて欲しい。(8期)
- ・新しい医薬品情報や母校の通信など盛りだくさんの内容を待っています。(9期)
- ・卒業生の活動状況を報告して欲しい。(10期)
- ・母校とつながりがもててうれしい。(11期)
- ・情報が入っていて、母校がいかにがんばっているかがわかる。(11期)
- ・生徒の声をもっと載せてほしい。(14期)
- ・色々な職場の現状等を知らせて欲しい。(14期)
- ・これからもずっと発行して欲しい。(14期)
- ・いつ発刊されているのかが分からない。(15期)
- ・各講座でどのような事を行っているのか、近況をわかりやすく伝えて下さい。(16期)
- ・卒業教育の講義内容を参加できない人にも分かる様にして欲しい。(16期)

青森県



有限会社サン・ショウ

サン調剤薬局

代表 第一期生 三 上 章

■ハツ橋店 (本店)

〒030 青森市大字筒井字ハツ橋1382-16
TEL0177 (28) 3200 FAX0177 (28) 2552

■桂木店

〒030 青森市桂木町4丁目6-35
TEL0177 (34) 7890 FAX0177 (34) 7891

■八重田店

〒030 青森市大字八重田字鶴見11-37
TEL0177 (26) 3377 FAX0177 (26) 3387

■ベイブリッジ店

〒038 青森市沖館4丁目8-20
TEL0177 (82) 8855 FAX0177 (82) 8866

■虹ヶ丘店

〒030 青森市虹ヶ丘1丁目3-15
TEL0177 (44) 5511 FAX0177 (44) 5512

■富野町店

〒036 弘前市富野町9-1
TEL0172 (37) 6677 FAX0172 (37) 7747

■安原店

〒036 弘前市安原2丁目1-36
TEL0172 (87) 6666 FAX0172 (87) 6667

■名川薬局

〒039-05 三戸郡名川町大字平字虚空蔵40-3
TEL0178 (76) 1010 FAX0178 (76) 1004

小社に勤務している薬剤師です。

東日本学園大学卒業 (現北海道医療大学)

石井 恵子	第17期生	平成5年度卒
保村 尚利	第16期生	平成4年度卒
青木 一郎	第15期生	平成3年度卒
木村 里美	第15期生	平成3年度卒
青木 真由美	第14期生	平成2年度卒
川元 裕史	第5期生	昭和56年度卒
三浦 潤介	第3期生	昭和54年度卒
野呂 さえ子	第3期生	昭和54年度卒
三上 志津子	第1期生	昭和52年度卒
三上 章	第1期生	昭和52年度卒



医薬分業を掲げて急成長する調剤界の旗手

日本調剤株式会社

〒060 札幌市中央区北4条西5丁目1 アスティ45ビル10F
TEL(011)205-6000

代表取締役 三津原 博

高橋 静司 (1期)	奥山 純子 (10期)	岡田 光司 (14期)	山崎 信彦 (2期)
秋元 美樹 (10期)	五福 博 (15期)	中原久美子 (2期)	小笠原美幸 (11期)
小原さおり (15期)	高木安紀子 (3期)	神田 一仁 (11期)	小島多加志 (15期)
数坂 桂子 (6期)	大坪 匡志 (13期)	片井 喜恵 (16期)	佐藤 宏幸 (7期)
徳谷 智美 (13期)	荒木 一浩 (17期)	下坪 晃 (8期)	西田 純子 (13期)
竹澤 千尋 (17期)	荒木 清孝 (8期)	中島 香苗 (14期)	小林 麻美 (18期)
山下 雅史 (9期)	相馬 宗徳 (14期)		

保険調剤・一般医薬品・介護用品・衛生材料



(株)太誠堂薬局

本社 小樽市塩谷2丁目17番地12号

☎(0134)26-3451

支店 札幌 白石店/山鼻店/稲穂店

小樽 奥沢店/住ノ江店/花園店

情報化調剤をめざして実践する



保険調剤

株式会社 ドラッグ・サンジョウ

ナカゾマ薬局

代表取締役 中島久司

本社/☎080 帯広市西7条南7丁目2番地6 ☎(0155)25-7389
札幌本部/☎001 札幌市北区北14条西4丁目11の11 ☎(011)737-4138
帯広本部/☎080 帯広市西7条南7丁目2番地6 ☎(0155)25-7389

創業17年 医薬分業のさきがけ

(株) 中央薬局 薬剤師募集中

本店 旭川市4条通11丁目右10号 TEL (0166) 22-2108

代表取締役社長 堀籠 昌之 (薬剤師)

畑中 勝(3期) 塚野 弘美(6期) 星場 悟(11期) 今泉 茂子(12期) 近藤ゆかり(13期)

北海道北随一の店舗で健康社会に奉仕

中央薬局本店	豊岡中央薬局	大雪中央薬局	かむい中央薬局	永山中央薬局
みずほ中央薬局	本町中央薬局	東旭川中央薬局	永山南中央薬局	二条中央薬局
十字街中央薬局	新富中央薬局	東光中央薬局	神居中央薬局	

札幌証券取引所上場

医薬品総合卸 IBMコンピュータ販売



ホシ伊藤株式会社

代表取締役会長 伊藤 太郎

代表取締役社長 伊藤 寛志

本社 札幌市中央区南8条西14丁目3番15号 電話(561)-6111

医療法人

東札幌病院

院長 石谷 邦彦

- 診療科目/内科、消化器科、外科、循環器科、肛門科
- その他/人間ドック、健康診断
緩和ケア病棟
- 診療時間/平日：午前9時～午後5時
土曜：午前9時～正午
(日曜・祝日一休診)

〒003 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35号(南郷通り)
TEL011-812-2311(代表) FAX011-823-9552

—— お 知 ら せ ——

〈同窓会会員登録住所について〉

現在、会員各位の住所変更につきましては住所変更届のハガキを送付していただき会報、各種案内および大学からの資料など発刊、送付前に変更を行っておりますが、業務の適性化をはかるため年3回（2, 6, 10月末）に行うことに決定いたしました。その間、旧住所で郵送されることとなりますが郵便局への変更届もお忘れないようお願いいたします。また、新入会員の皆様の住所は帰省先で登録されております新住所が決まりましたら事務局までハガキにてご連絡ください。なお、名簿発刊時には別途確認のハガキをお送りいたします。新名簿発刊は97年7月の予定です。

「編集後記」

大学近郊も山々にも初雪が降り、みなさんが学生時代に経験したあの雪の季節がもうすぐそこまでやって来ています。

表紙の写真は平成6年10月に大学創立20周年を記念して「北海道医療大学」駅前に建設されました記念会館です。会員の皆様には多大なご寄付をいただきましてありがとうございました。機会がありましたら一度いらしてください。

本誌第12号は多くの先生、会員の皆様より原稿が寄せられました。原稿を寄せていただきました皆様に感謝いたします。ありがとうございました。だんだんと情報交換の場として多くの方に利用していただけるようになってきたことを編集部では喜んでおります。また、毎回アンケートに回答いただきましてありがとうございます。本部では会員の皆様の回答を集計し同窓会の発展のためにフィードバックさせていきたいと考えております。大学や同窓会に意見などお持ちの方はお書き添えください。

同期会、同門会の原稿や仲間同士の集会などの原稿も気楽にどしどしお寄せください。PRや広告もお待ちしております。次回の発行は平成9年4月の予定です。

浜上 尚也（9期）